

二〇一八年度

聖園女学院中学校 入学試験問題

国語

(時間 五十分)

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図があるまで中を開いてはいけません。
- 二、受験番号・氏名を解答用紙の定められた欄にかならず記入しなさい。
- 三、試験問題の印刷がはつきりしない場合には手をあげなさい。
- 四、解答は解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出しなさい。

三
次

一、次の——線部をひらがなに直しなさい。

- (1) 路地に花が咲く。 (2) 平和を切実に願う。 (3) 山で修行をする。
- (4) 木陰でひと休みする。 (5) 兄の言葉は潔い。

二、次の——線部を漢字に直しなさい。

- (1) 名人のまねから始める。 (2) 車のめんきよを取得する。 (3) 建物をたいしん構造にする。
- (4) えんてんかでの運動は避ける。 (5) 机を窓側にうつす。

三、次の文章を読み、後の各問に答えなさい。

この部分につきましては、著作権法上の問題から掲載することができません。

この部分につきましては、著作権法上の問題から掲載することができません。

この部分につきましては、著作権法上の問題から掲載することができません。

四、次の文章を読み、後の各問に答えなさい。

食堂^①のお客さんたちは、僕を子供だと思っている。僕が小柄で眼鏡だけが大きく見え、マンガによく出てくる少年みたいだからだ。

前に、マスターに「どこの子かな？」と訊^きかれたことがあった。それで、「僕の家は隣の町のサンドイッチ屋です」と答えた。

「ああ、〈トロワ〉だね」

マスターは、うちの店を知っているようだった。

「いいお店だね。そのうち、君も店の手伝いをするようになるのかな？」

^②(いいえ)と僕は心の中で答えた。考える前に将来が決まっているのは、なんだか面白くない。僕は自分で考えた道を進みたい。

だから、僕は食堂のテーブル席で目の前に座った大人のひとに、

「仕事は何ですか」

と、訊くことにしている。

このあいだは、向かいの席に何もかもが太いおじさんが座った。まゆ毛が太くて、首が太くて、腕が太くて、体の全体が太い。

「ああ、おじさんは、その商店街で文房具屋をやってるんだけど」

僕の質問に、太いおじさんはそう答えた。声の感じまで、なんとなく太い。

「文房具屋さんって、面白いんですか」

「そりゃあ、面白いよ」

おじさんは話すたびに、大きな耳が右と左と揃^③ってびくびく動いた。

「なんだってあるからね、うちは。そんじょそこの文房具屋とは、ひと味もふた味も違^④うんだよ」

「どんなものがあるんですか」

「だから、なんだってあるんだよ。うちはむかし、よろず屋だったからね」

「よろず？ って、なんですか」

「ああ、よろずっていうのは、たくさんあってことだな。デパートのことを百貨店というだろう？ あれと同じだよ」

「じゃあ、デパートみたいなんですか」

「そうそう。あそこまで大きくないけど、うちは裏にでっかい倉庫があって、そこになんでも詰め込んである。お客さんは、まさかこんなもの売ってないだろうと思って、うちに来るんだけど……そう、たとえば今日も、ピンポン玉ありますかって、君みたいな子が来て、もちろんあるよって裏から出してきたら、すごく喜んでた。それから、運動会で使うゼッケンがありますかって体育の先生が来たから、もちろんありますって」

文房具屋さんは次から次へと品物の名前をあげていった。

浮き輪、ちようちん、スポイト、鯉^{こい}のぼり、水枕、湿度計……

「お客さんがびっくりする顔を見たくてさ。まさか、ないだろうっていうものが、手品みたいにさっさと出てくるんで、まず驚いて、それから、みんな笑っちゃうんだよね。そうすると、こっちもうれしくてさ」

なんだか僕までうれしくなってきた。そんなお店があるなんて。もしかして、これが最高^⑤の仕事かもしれない。「ありますか？」と訊いたら、「ありますよ」と答えてくれる店。無敵だ。

「ただね」と文房具屋さんは太いまゆ毛を動かした。「最近、ぐんとお客さんが減っちゃってさ。インターネットを使ってなんでも買えるからね。もう、よろず屋なんてめずらしくないんだよ。当たり前なんでも買えるから」

僕はインターネットで買い物をしたことがない。それはうれしい買い物なんだろうか。なんでも売っていたとしても、それが当たり前なら、きっと、そんなにうれしくない。予想と違って手品^⑥のようだから、うれしいのだ。

「しょうがないよね」

と、文房具屋さんが言った。すると、ちようど僕の横を通りかかったおじさんが、「なんの話？」と首をかしげた。

「何が、しょうがないの?」

「いや、お客さんが減ったって話」

「おじさんは、どんな仕事をしているんですか」と、僕はまっさきに訊いた。

「おれは肉屋だよ」と、おじさんは楽しそうに言った。文房具屋さんと同じくらいで、同じように太い腕で、指がソーセージのように肉がつまっているみたいだった。

「肉屋は好き?」

と、肉屋さんは僕の目をまっすぐに見た。すごく答えづらい質問だった。肉は好きだけど、肉屋さんが好きかと訊かれると迷ってしまう。

「おれは、^⑦肉屋くらいかっこいい仕事はないと思ってる」

肉屋さんは僕の目を見るのをやめて、隣に座っている文房具屋さんに向かって話し始めた。

「たとえば、文房具屋さんは裏にでっかい倉庫があるだろう? そこに商品がストックされてるわけだよ。うちにもドでかい冷蔵庫があつてさ、肉を冷凍して保存しているけど、さすがに倉庫はないよね。だけど、肉がああして店先に並ぶまでには、ホント、いろいろあるわけで、育てるひとがいて、解体するひとがいて、運ぶひとがいて、うちへ来るまでに、どんだけ手間ひまかかっているかわかんない。それって全部、目的はひとつでさ、肉を売るためにやっているわけだよ。そうになるとね、おれらみたいな小売業の仕事って、リレーのアンカーみたいなもんでさ、裏に倉庫はないけど、おれのうしろにはいろんなひとがいるわけよ。アンカーだよ。おれはガキのときから見てのとおり太っていて走るのがおそかったから、アンカーはいつもあこがれだったんだよ。なんか、かっこいいでしょ、アンカーって」

「責任重大だけどね」と文房具屋さんがうなずいた。

「いや、そこを含めてのかっこ良さじゃないかな。まあ、うちも前にくらべたら客は減ったかもわかんないけど、まだまだ元気あるよ、おれは」

「いや、おれも元気はある」と文房具屋さんもうなずいた。「おれたちが元気なくしたら、商店街が元気なくなるし」

「そうそう。商店街が元気なくなったら、町が元気なくなつて、そうしたら、みんな元気なくなつて、子供たちも——」肉屋さんが僕の方を見た。

「商店街を愛してほしいね」

食堂へ通うようになってから、まだそんなに経^たっていないけれど、僕が大人のひとたちに仕事について質問をする^⑧と、何人ものひとが自分の仕事だけではなく、商店街の話をしてくれた。たとえ、小さな商店街だとしても、それが町にとつてどんなに大切なものか。商店街に並ぶ小さな店のひとつひとつが元気にしていれば、

「それだけで幸せなんだよ」

と、肉屋さんは言っていた。

それで、僕は「幸せ」について考えるようになった。

将来について考えるのと、幸せについて考えるのは同じような気がする。たぶん、幸せというものが将来にあるからだろう。それで、みんな「幸せになりたい」という言い方をする。

「むかし」のことと違って、「将来」のことはまだ経験していない。だから、可能性があつて、いろいろ考えられる。といつても、あんまり先のことはわからないから、とりあえず、十年先くらいまでを考える。

でも、そうして考えているうちに、時間は一分、二分と前へ進んでしまう。考えているうちに、将来へ近づいてゆく。立ち止まってくれない。

食堂から帰るとき、路面電車に乗ると、会社や学校が終わって、家に帰るひとで満員だった。携帯電話を見ているひとが多かった。眠っているひともいた。みんな黙^{だま}っていた。黙っているけれど、きっと、頭の中ではいろんなことを考えている。

みんな、^⑨将来に向かっていた。

(吉田篤弘『つむじ風食堂と僕』より。一部改変)

(注) ※ マスター……飲食店などの主人。

字数制限のあるときには、句読点や記号は一字と数えなさい。

- (問一) — 線①「堂」の部首をそのまま書きなさい。
- (問二) — 線②「(いいえ)」とありますが、この時の「僕」の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) これ以上人に将来の話はしたくない。 (イ) サンドイッチ屋にはなりたくない。
- (ウ) 将来のことは人に決められたくない。 (エ) もう店の手伝いはやりたくない。
- (問三) — 線③「びくびく動いた」とありますが、どのように動く様子を表していますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 小刻みにふるえ動く様子 (イ) ゆっくりと動く様子
- (ウ) 大きく動く様子 (エ) 苦しそうに動く様子
- (問四) — 線④「ひと味もふた味も違う」とはどういうことですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) うちの文房具屋は他の店と違って、デパートと同じくらい大きいということ。
- (イ) うちの文房具屋は他の店と違って、いろいろな品物を販売しているということ。
- (ウ) うちの文房具屋は他の店と違って、倉庫がそのまま店になっているということ。
- (エ) うちの文房具屋は他の店と違って、よろず屋のころからの歴史があるということ。
- (問五) — 線⑤「最高」とありますが、同じように「最」の形で熟語を作ることができない漢字を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 愛 (イ) 強 (ウ) 新 (エ) 明
- (問六) — 線⑥「うれしいのだ」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 手に入るかわからなかったものが意外にも手に入ったから。
- (イ) 手に入りにくいものをたまたま見つけることができたから。
- (ウ) 誰にでも役立つものか思いがけず手に入ったから。
- (エ) なくしていたものを偶然見つけることができたから。
- (問七) — 線⑦「肉屋くらいかっこいい仕事はない」とありますが、なぜかっこいいと思っただけですか。説明しなさい。
- (問八) — 線⑧「たとえ……大切なものか」とありますが、なぜ大切なのですか。説明しなさい。
- (問九) — 線⑨「将来」とありますが、これは何を表していると考えられますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 時間 (イ) 仕事 (ウ) 考え (エ) 幸せ

問題は、ここで終わりです。